

キンドリル財団年次 インパクトサマリー 2026



はじめに

[キンドリル財団](#)が、世界各地の非営利団体とのパートナーシップを開始してから2年が経ちました。この節目を迎えられたことを大変誇りに思います。キンドリルが独立企業として歩み始めてほどない2023年に、私たちは自らの知見や専門性を地域社会と共有し、人々がデジタル時代において活躍できるよう支援することを目指してキンドリル財団を設立しました。本レポートでは、私たちが当初掲げた目標に対する着実な進展をご紹介します。

テクノロジーによる変革のスピードはますます加速し、生活や仕事のあり方にこれまで以上に大きな影響を与えています。このような環境において、デジタルスキルは経済活動への参加や新たな機会を得るために欠かせないものとなっています。キンドリルが発行した、AIに対する人材や組織の準備度を世界で調査した最新の「[ピープル・レディネス・レポート 2026](#)（英語）」では、AIの活用が加速するなか、その担い手となる人材やスキルの不足が大きな課題として挙げられており、半数を超える組織が適切な人材の確保が前年よりも難しくなったと回答しています。

一方で、デジタル技術の進展によって新たな可能性を広げられる人々ほど、その変化に対応するために必要な学びやスキル習得の機会に十分アクセスできていない場合があります。私たちは、誰もがその恩恵を受けられるべきだと考えています。特にデジタル化の進展から取り残されるリスクの高い人々にこそ、その機会が必要です。私たちの目的は明確です。AIおよびサイバーセキュリティ分野におけるスキルギャップを縮小し、教育を通じてよりインクルーシブな社会と経済の実現に貢献することです。

私たちは、パートナーである助成先団体との協働を通じて、多くの人々が学びやキャリア形成に向けた新たな一歩を踏み出せるよう支援しています。そして、そこで得られた知識や経験はさらに多くの人々へと広がっています。その結果、キンドリル財団の助成プログラムは、活動2年目で40万人を超える人々に成果を届けることができました。

この1年間、キンドリルは11カ国においてさまざまな取り組みや官民連携イニシアチブへの重要なコミットメントを発表しました。

- [米国](#)では、ホワイトハウスが推進する「Pledge to America's Youth: Investing in Artificial Intelligence Education」に署名し、小中高校生がAI教育にアクセスできる環境づくりに取り組んでいます。
- [メキシコ](#)では、同国政府の国家AI研究所（National Artificial Intelligence Laboratory）が実施する国家規模のサイバーセキュリティ人材育成プログラムに参画し、1,000名を対象にサイバーセキュリティの基礎教育を提供しています。
- [欧州](#)では、欧州委員会の「Cybersecurity Skills Academy Pledge」に署名し、2030年までにEU域内25,000人へ無償のサイバーセキュリティ教育を提供することを約束しました。
- [インド](#)では、今後3年間で22億5千万ドルを投資し、将来に向けた人材育成、AIラボの設立、そして今後数年間で50,000人の学生に対するAI教育の提供を発表しました。



Una Pulizzi

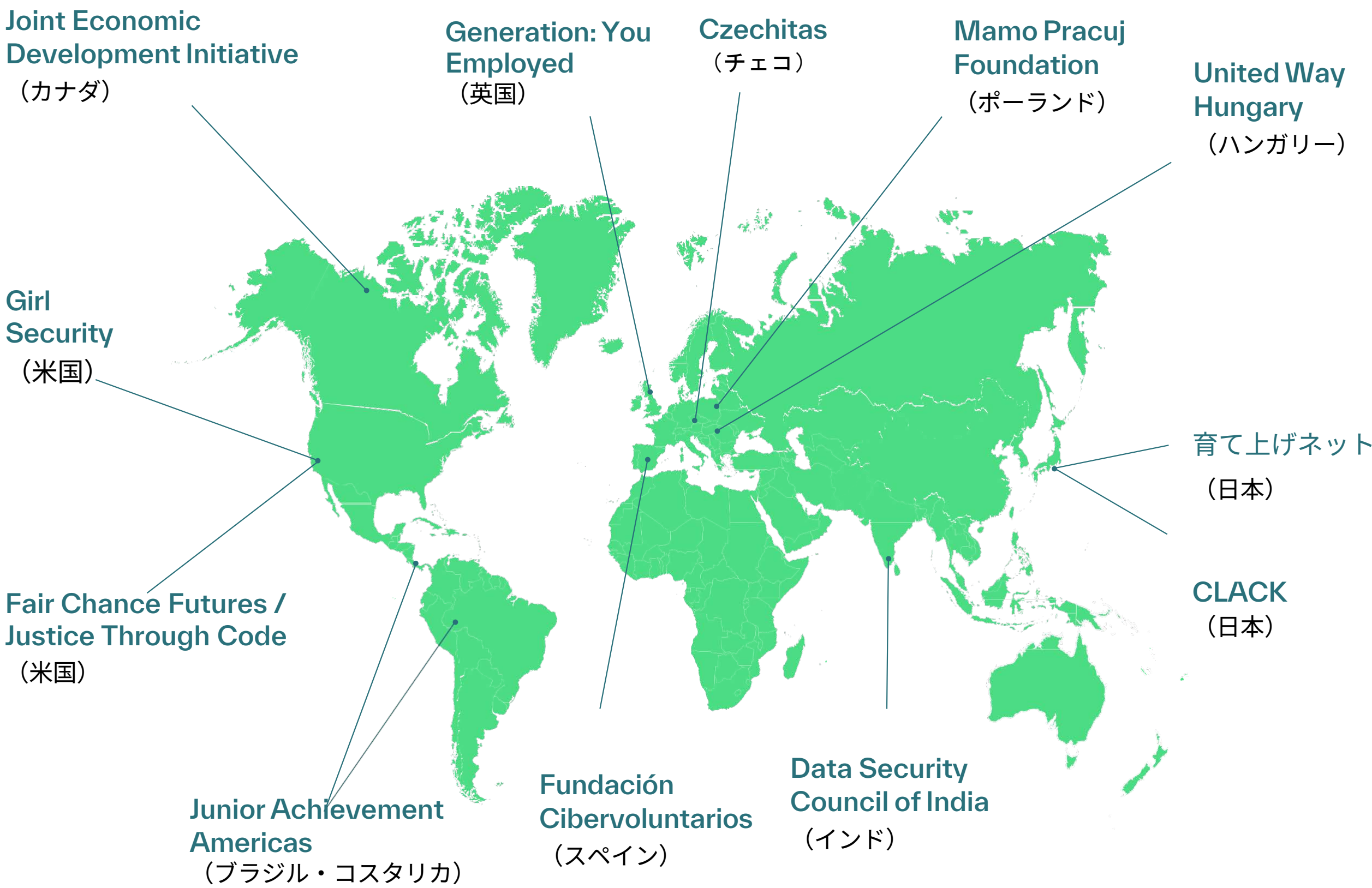
キンドリル財団代表理事
キンドリル コーポレートアフェアーズ グローバル責任者

昨年、私はキンドリル財団とインド・データセキュリティ協議会（DSCI: Data Security Council of India）との協働によりムンバイに開設された「[Advanced Cyber Skill Centre](#)」の開所式に参加しました。この施設では、地方都市や農村部の若者たちが地域社会を守るために必要なデジタルスキルを提供するとともに、将来の人材育成を支える場として大きな可能性を秘めています。

本レポートでは、このほかにも助成先団体が支援してきた個人、学校、地域社会のさまざまなストーリーをご紹介します。

私たちはこれからも、「持続的なインパクトは、パートナーシップと信頼、そして継続的なコミットメントによって生まれる」という信念を大切にしていきます。助成先団体の皆さまとともに、重要なデジタルスキルへのアクセスを広げ、人々や地域社会に新たな機会をもたらし、将来の担い手となる人材の育成に取り組んでまいります。私はこの活動を誇りに思うと同時に、その実現を支えている世界中のキンドリル社員を誇りに思います。

助成先団体一覧（国・地域別）



助成先団体数
12団体

活動国・地域数
11カ国

プログラム受講者数
46,860人

就職・就業につながった受講者
529人

学習時間
474,400時間以上

支援の波及効果
353,800人以上

※一部の助成先団体は、プログラム参加者本人への直接的な成果に加え、その家族や地域コミュニティへの波及効果、啓発活動による到達人数、助成金によって提供された無償教材や研修コンテンツの利用者数なども報告しています。本レポートにおける「支援の波及効果」には、これらの間接的な受益者も含まれます。



 受講者数: 78  学習時間: 60,684

 就業者数: 5

Joint Economic Development Initiative (JEDI) は、カナダ・ニューブランズウィック州において、デジタルリテラシー教育や職業訓練を通じて先住民族コミュニティの経済的自立を支援する団体です。キンドリル財団による助成2年目となる本年度は、30時間のITブートキャンプを3回実施したほか、CyberCamp、専門能力開発プログラム、高度な暗号化・復号化トレーニング、さらに10時間の資格取得対策コースなどを提供しました。



 受講者数: 210  学習時間: 131,360

 就業者数: 168  波及効果人数: 400

Fair Chance Futures (旧 Justice Through Code) は、低所得層や収監率の高い地域の人々がAI時代に活躍できるよう支援する団体です。キンドリル財団の助成により、司法制度の影響を受けた人々を対象とした職業訓練、メンタリング、キャリア開発プログラムを実施するとともに、オープンソースの教材や知見の発信も行いました



北米におけるサイバー人材育成の推進

2025年8月、キンドリルは米国を代表する60を超える企業・団体とともに、ホワイトハウスが推進する「Pledge to America's Youth: Investing in Artificial Intelligence Education」に署名しました。この取り組みは、国全体のサイバーセキュリティ強化、人材育成の促進、そしてAIおよびサイバーセキュリティ分野へのキャリア機会の拡大を目的としています。

キンドリル財団の助成先であるGirl Securityは、この誓約の実現に向けて、2027年までに1,200人を超えるAI・サイバーセキュリティ人材の育成パイプライン構築に取り組んでいます。さらに、AI学習とクリティカルシンキングを支援する学習プラットフォーム「All Secure」を通じて、50,000人の教育関係者や学生へのリーチを目指しています。

また2025年11月には、キンドリルはメキシコ国家AI研究所（National Artificial Intelligence Laboratory）が実施する国家規模の人材育成プログラムへの参画を発表しました。このプログラムでは、第1期生として1,000人を対象に、20週間にわたる集中的なサイバーセキュリティ基礎講座を提供します。

さらに、この取り組みは「Abriendo Puertas (Opening Doors)」プログラムも支援しています。同プログラムでは、産業界と財団パートナーが連携し、Java開発者育成プログラムを実施しています。行政機関の持つネットワークと公共セクターの実行力を組み合わせることで、より大きな成果の創出を目指しています。

🏠 受講者数: 2,230 ⌚ 学習時間: 17,400

👤 就業者数: 98 🌐 波及効果人数: 250,000

Girl Security は、STEM（科学・技術・工学・数学）分野の学習機会やキャリアへのアクセスが限られている若者、特にさまざまな困難な環境に置かれた若者を支援する非営利団体です。キンドリル財団による助成2年目となる今年度、Girl Securityは当初の計画を上回る学生および社会人学習者への支援を実現し、500名を超えるメンターの参画を得ました。助成金により、メンタリングを中心とした学習プログラムや、就業体験型フェローシップ、サマーブートキャンプを実施しました。また本年度は、就職につながった参加者に加え、475名の受講者が高等教育へ進学しました。さらに、Girl Securityが提供する無償のオンラインカリキュラムは、世界中で数十万人規模の利用者に活用されています。

フェローからメンター、そしてハーバード大学へ

シカゴのアーゴ・コミュニティ高校に通う高校生のスーザン・ダンラップさんは、成長過程において経済的な困難や不安定な家庭環境など、さまざまな困難に直面してきました。進路指導教員の勧めでGirl Securityのフェローシップに参加したスーザンさんは、自らの経験は克服すべき弱みではなく、強みになり得ることに気づきました。自信を深めたスーザンさんはプログラムで優れた成果を上げ、キンドリル財団による助成2年目には、今度は年少の参加者を支援するメンターとして活動しました。その後、スーザンさんはゲイツ財団の奨学生に選ばれ、この秋から全額奨学金を得てハーバード大学に進学する予定です。

“

このプログラムは、私がこれまで知らなかった可能性への扉を開き、想像していた以上の成長をもたらしてくれました。自信や支え合えるコミュニティを得ただけでなく、AIやサイバーセキュリティ、そしてそれらが社会に与える影響について、新しい視点を持つことができました”

スーザン・ダンラップ Girl Securityフェロー、メンター、ハーバード大学進学予定



 受講者数: 424  学習時間: 96,849

 就業者数: 86

Junior Achievement Americas (JA Americas)

は、「Mulher Digital (She is Digital)」プログラムを通じて、ブラジルおよびコスタリカの女性に対し、テクノロジー分野で活躍するために必要なサイバーセキュリティの知識と就業スキルを提供しています。

キンドリル財団の助成により、サイバーセキュリティ研修、ウェビナー、マスタークラス、模擬面接、就業準備支援セッション、メンタリングプログラムなどを実施しました。

不安から自信へ

ブラジルで「Mulher Digital」プログラムを修了したカーリタ・カルデイラ・ダ・フォンセカさんは、



“

キンドリルから採用のオファーを受けたとき、最初は言葉が出ませんでした。ノートに書いていた目標が現実になったのです。夢は実現できることを証明できました。”

カーリタ・カルデイラ・ダ・フォンセカ

Mulher Digital 受講生

昨年ノートに書き留めていた目標、「プログラムを修了すること」「Mulher Digital認定を取得すること」、そして「キンドリルで働くこと」をすべて実現しました。「キンドリルから採用のオファーを受けたとき、最初は言葉が出ませんでした。ノートに書いていた目標が現実になったのです。夢は実現できることを証明できました。」彼女の経験は、現在ほかの参加者たちの励みとなっています。

また、コスタリカで同プログラムを修了したメリッサ・ビジャロボスさんは、AmazonのGO AI Associateとして採用されました。メリッサさんは、プログラムの一環として実施されたキンドリル訪問を振り返り、次のように語っています。「あの日が転機になりました。そのとき初めて、『私にも違う未来を描くことができる』と思えたのです。」





 受講者数: 28,362  学習時間: 32,512

 就業者数: 40

Czechitas は、女性がサイバーセキュリティ分野で新たなキャリアを築けるよう支援する団体です。サイバーセキュリティオペレーションセンター（SOC）アナリストや情報セキュリティスペシャリストなどの職種を目指す女性に対し、必要な知識や自信を身につける機会を提供しています。キンドリル財団の助成により、サイバーセキュリティ基礎講座、普及啓発活動、ソフトスキル研修などを実施しました。

“

Digital Academyで学び、テクノロジーは一部の特別な人のためのものではないと気付きました。必要なのは学びたいという意欲と、それを支える環境です。そして、それを私はCzechitasで見つけることができました”

カタジナ・ポジーシュコヴァ
Czechitas受講者、3人の子どもを育てながらキャリアチェンジに挑戦中



欧州におけるスキル育成とサイバーレジリエンスの推進

2025年10月、キンドリルは欧州委員会の「Cybersecurity Skills Academy Pledge」に署名し、2030年までにEU域内25,000人へ無償のサイバーセキュリティ教育を提供することを約束しました。

キンドリル財団は、チェコ、スペイン、ハンガリー、ポーランドの助成先団体との協働を通じて、サイバーセキュリティ専門人材不足の解消に取り組んでいます。また、人材育成や就職支援に加え、教育やコンサルティングを通じて組織のサイバーレジリエンス向上も支援しています。





受講者数: 9,077 学習時間: 27,375

波及効果人数: 129,803

Fundación Cibervoluntarios は、若者、自営業者、起業家、地方在住者など、デジタル環境へのアクセスや活用に課題を抱える人々を支援するスペインの非営利団体です。

キンドリル財団の助成により、16歳から24歳の若者向けに、サイバーセキュリティとエシカルハッキングを学ぶ無償プログラム「RetoHacker」を実施しました。

また、啓発活動やオンライン教育キャンペーンを通じて、さらに多くの人々へ学びの機会を提供しました。



受講者数: 2,043 学習時間: 4,673

就業者数: 23 波及効果人数: 93,000

Mamo Pracuj Foundation はポーランドの女性のキャリア形成を支援し、企業と優秀な人材をつなぐ活動を行っています。今年度の助成金は、「Cyber Women Leaders」プログラムに活用されました。

このプログラムでは、サイバーセキュリティ研修、技術英語講座、メンタリングセッションを実施しています。

さらに、サイバーセキュリティイベントやカンファレンス、修了生による職場での啓発活動などを通じて、コミュニティへの広がりを創出しました。



受講者数: 202 学習時間: 50,298

就業者数: 71

Generation: You Employed, UK は、就職にさまざまな障壁を抱える人々がキャリアを築けるよう支援する団体です。

キンドリル財団の助成により、「IT Support with Cyber Security」プログラムを実施しました。

この研修では、英国内でのサイバーセキュリティを含む技術的な研修に加え、メンタリング、コーチング、就職支援を組み合わせた実践的な支援を行いました。





 受講者数: 3,077  学習時間: 5,173

United Way Hungary は、教育機会と経済的安定の向上を通じて、将来世代の支援に取り組む団体です。

キンドリル財団の助成により、「United for CyberSafe Youth」プログラムを実施しました。

このモジュール型サイバーセキュリティ教育プログラムは、特に社会的に不利な環境にある若者や視覚障がいのある若者を対象としています。

参加者は学んだ知識を活かして、自身の学校でピアメンターとして活動し、オンラインの安全性について他の生徒へ教える機会も得ています



AIは賢く活用しなければなりません。

どの程度頼るのか、自分なりの基準を持つ必要がありますし、すべてを鵜呑みにせず確認することも大切です。

このプログラムを通じて、そのことを改めて実感しました”

ドロッチャ

視覚障害を持つCyberSafe Youthプログラム参加者

サイバーセーフティを新たな視点で考える

今年、United Way Hungaryは、ハンガリー視覚障害者協会をはじめとする非営利団体との連携を通じて、[CyberSafe Youth](#)プログラムを展開しました。

視覚障がいのある若者にとってオンライン上の安全確保は重要な課題であり、プログラムは実践的な学びを提供しました。

また、視覚障がいのある参加者とそうでない参加者がともに学ぶ機会となり、自信の向上やインクルーシブな学習環境への理解促進にもつながりました。



 受講者数: 578  学習時間: 45,000

 就業者数: 27

Data Security Council of India (DSCI) は、インドにおけるデータ保護の推進を担う代表的な非営利団体です。キンドリル財団による助成2年目となる本年度、DSCIは「[Cyber Vaahini](#)」プログラムをさらに拡大しました。同プログラムは、エシカルハッキング、脅威分析、インシデント対応などの専門教育を通じて、若い女性がサイバーセキュリティ分野でキャリアを築くことを支援しています。さらに、メンタリング、実践的な学習機会、就職支援も提供しています。また、Cyber Vaahiniの修了生自身が講師となり、2日間のサイバーブートキャンプを実施することで、より多くの学習者への知識の普及にもつながっています。

“

Cyber Vaahiniは、自分自身に対する見方を変えてくれました。スキルだけでなく、自信と将来への見通し、そして挑戦する勇気を与えてくれました”

ジャグルティ・クルカルニ

Cyber Vaahini プログラム参加者



インドのデジタル人材育成への取り組みをさらに強化

2025年8月、キンドリル 会長兼CEOのマーティン・シュローターとインドのナレンドラ・モディ首相との会談を契機として、キンドリルおよびキンドリル財団はインドにおける社会的インパクト創出への取り組みをさらに強化しました。

会談後に発表された30億ドル規模（原文：22億5千万ドル）の3年間の投資計画の一環として、キンドリルは50,000人の公立学校の生徒にAI基礎教育を提供するとともに、30,000人をAI活用を推進する人材として育成することを目指しています。

また、行政機関職員向けのAIスキル習得プログラムを公的学習プラットフォームへ組み込み、公共部門におけるAI活用能力の向上も支援していきます。

さらにキンドリル財団は、昨年ムンバイに開設されたDSCIの「Advanced Cyber Skill Centre」の設立を支援しました。

最先端の研修設備やサイバー攻撃シミュレーターを備えたこの施設では、インドの地方都市に暮らす若者や女性が、国内外で活躍できるサイバーセキュリティ人材として成長するための学習機会を提供しています。



育て上げネット

🏠 受講者数: 475 🕒 学習時間: 1,525

🔧 就業者数: 84

認定特定非営利活動法人育て上げネットは、多様な就労支援プログラム、啓発活動、キャリアガイダンス、家族支援などを通じて、若者の経済的・社会的自立を支援しています。キンドリル財団による助成2年目となる本年度、育て上げネットはオンラインの情報リテラシー講座および、サイバーセキュリティシミュレーションを取り入れた2日間の対面集中講座を通じて、若者にサイバーセキュリティスキルプログラムを実施し、キャリア開発支援やメンタリングもあわせて提供し、参加者の学びと就業へのステップを後押ししました。



🏠 受講者数: 104 🕒 学習時間: 1,612

認定特定非営利活動法人CLACKは、経済的な理由や家庭環境により十分な教育機会を得られない高校生を対象に、AIなどのテクノロジー教育やキャリア支援を行っています。キンドリル財団の助成初年度は、東京と大阪で、サイバーセキュリティ分野の体験型プログラム「Be Pro Cybersecurity」を実施しました。また、キンドリル社員ボランティアがキャリア講話やオフィス訪問を通じて、実際の仕事やキャリアに関するアドバイスやメンタリングを提供しました。



より強靱な 未来の基盤づくりに向けて

キンドリル財団と助成先団体は、この2年間で具体的かつ測定可能な成果を積み重ねてきました。
私たちは今後さらなるインパクトの創出に向けて取り組みを加速させていきたいと考えています。

AIの急速な普及が進み、デジタル人材の育成やサイバーセキュリティ対応力の強化がこれまで以上に求められる現在、未来を担う人材の育成は、個人、企業、地域社会の持続的な成長にとって不可欠です。

こうした考えのもと、キンドリル財団は3年目となる今年度、既存の12団体への助成を継続するとともに、新たにフランスおよびメキシコへと活動を拡大します。

人を中心に据える企業として、こうした取り組みはキンドリルの価値観を体現するものです。

来年も、助成先団体の皆さまとともに生み出した成果をご報告できることを楽しみにしています。

今後の活動にもどうぞご期待ください。



kyndryl foundation

本レポートは印刷物として作成されていません。
本レポートは2026年8月に発行されました。

本部所在地

One Vanderbilt Avenue, 15th Floor
New York, New York 10017

問い合わせ先

本インパクトサマリーに関するご質問やご意見は、
下記までお問い合わせください。

foundation@kyndryl.org.
kyndryl.com

© Copyright Kyndryl, Inc. 2026

Kyndrylは、米国およびその他の国におけるKyndryl, Inc.の商標または登録商標です。その他の製品名およびサービス名は、Kyndryl, Inc.または各社の商標である場合があります。

本書に記載された情報は、情報提供およびキンドリルの広報・マーケティング活動を目的として提供されるものであり、助言または推奨として利用されることを意図したものではありません。